

2026年9月4日発行

進路通信 「未来への扉」 9月号

進路支援部発行

1. 進路支援部長より『進路希望目標の設定の必要性和、その目標の変更、評価について』

生徒に進路希望調査をしたり、面談などで進路志望先を尋ねたり、ということは珍しくない。そういう時に生徒によく聞かれる、「先生これって絶対そこにしなくてはならないというわけではないんでしょう？」と。

私は基本的に、以下のように答える。「未来において絶対にそこに行くなどという断定など、どの人間にもできない。」ただし、目標が決まっていなくて、どこまでしなくてはならないという範囲限定や、どうやってそこまで進めばいいかという具体的な方法論、いつまでに何をしなくてはならないのかという計画、などが決まらない。この結果、常に行動が後手に回って、主体的な行動ができなくなる。成果が出ず、時間だけが過ぎて、志望通りの進路決定というのが困難になる。特に自分の現状に比べて、レベルが高い所を志望するなら、余計に。人に与えられている時間は平等、かつ、限られていて、過ぎ去った時間は取り戻しがきかないからね。だから目標の設定ということを、できるだけ早くすることが大事なわけだ。

一方で、自分の準備状況に応じて、当然進路志望は変えていけばよい。特に成績が上がっている状況であれば、イケイケで志望を上位校に変えていくということは、大事なことだ。

そもそも目標というのは、あくまでも未来の可能性の一つとして、仮に設定された予定であり、現状よりもある程度高く設定するのが基本だ。その理由は、人というのは怠け者で、立てた目標の範囲内でのみ動こうとしがちで、その目標が達成できれば、そこでやめてしまうからだ。だから自分の現状とあまり差のない目標を立てると、目標達成のための方法を考えたり、計画を立てて行動するというようなことをしなくても、簡単に目標が達成されてしまい、結局、自分が成長する機会を失ってしまうことになる。高い目標を自分で立てているなら、それに向けて努力をしようとするはずだから、仮に目標に到達できなくても、自分を今よりも成長させることもできる。

ただ、いきなり高い目標を立てるということに抵抗感を持つ者も多いよね。そういう場合は、ここまで成績が伸びればこの大学に、ここまで伸びればこの大学というように、志望校を段階化して、複数決めておくという方法があるからね。目標の立て方も色々あるから、自分の性格に合った立て方をすればよい」と。

自分の望みを達成するには、限られた資源としての時間をいかにうまく活用するかが問題となるが、その際に望みとしての目標をどう具体的に設定するかが、大事なポイントになる。自分の現状に比して高すぎても、低すぎても問題は生じるが、少なくとも今の大人側の多くは、低すぎるよりも高い方を、若くて元気、やる気があると、高く評価する傾向にあり、野心や野望が薄い者は、総合型選抜では合格しにくいことは、知っておいていいだろう。

2. 『夏の看護・医療体験 感想文(要約)』 *夏休みに2・3年生が医療・看護体験の作文

ドラマでは見えない現場のリアルと寄り添う看護

3年 Aさん 実習先：神崎総合病院 / 実習日：7月29日(水)

実際に病院に行って体験することで、本当の看護師の仕事を知ることができました。テレビドラマなどで描かれる理想のイメージとは違い、現場のリアルな看護を知ることができ、とても良い経験になりました。

担当の看護師の方もとても親しく接してくださったので、落ち着いて行うことができました。担当した患者さんは高齢の方が多く、単に言葉を交わすだけでなく、温かく受け止めてくださる姿が印象的でした。思うように治療が進まない患者さんに対しても、看護師さんは一人ひとりに寄り添い、丁寧に対応されていて素晴らしいと感じました。私も将来、このような医療従事者になりたいです。今日の大切な学びを受験への力に変えて頑張りたいと思います。

患者さんの不安を解きほぐす対話と個別リハビリ

3年 Bさん 実習先：神崎総合病院 ／ 実習日：7月27日(月)

今日の医療体験を通して、理学療法士の仕事について多くのことを知ることができ、大変有意義な時間となりました。

実際にリハビリテーションの様子を見学し、患者さんとのコミュニケーションが極めて重要であることを実感しました。対話を重ねることで患者さんの不安を解きほぐし、安心して前向きにリハビリに取り組んでいただけているのだと感じました。また、耳が遠い方や寝たきりの方など、それぞれの身体状況に合わせて負担にならないよう工夫を凝らすことの大切さを学びました。

理学療法士は一人の患者さんと長期にわたって深く関わることができ、回復の過程を支える大きなやりがいがあると聞き、理学療法士を目指したいという気持ちが一層強くなりました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。この経験を生かし、自分の目標に向かって努力を続けていきます。

遊びや作業を通じた意欲向上と寄り添う支援

3年 Cさん 実習先：神崎総合病院 ／ 実習日：7月27日(月)

今回の医療体験では、病棟を見学させていただき、患者さんと輪投げや塗り絵などのアクティビティを一緒に行うことができ、とても楽しかったです。

高齢の方のリハビリを見学する中で、身体機能へのアプローチだけでなく、認知症の方への適切な接し方や、患者さんの性格・特性に応じたリハビリ方法、散歩をしながら励ます声掛けなど、多様な工夫が凝らされていることを学びました。

作業療法は、患者さんの心に寄り添い、精神面を支えながら、得意なことや楽しめる活動を通じてリハビリへの意欲を引き出す素晴らしい仕事だと実感しました。以前から興味を持っていましたが、今回の体験を通じて、患者さんを心身両面から支えられる作業療法士になりたいという気持ちがより一層強くなりました。貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

単なる撮影作業ではない、患者さんへの細やかな配慮

3年 Dさん 実習先：神崎総合病院 ／ 実習日：7月28日(火)

今回の実習を通して、診療放射線技師になりたいという思いがさらに確固たるものになりました。これまで、診療放射線技師の仕事は「指示通りに写真を撮るだけの作業的なもの」という先入観を持っていました。しかし実際の現場では、医師が診断しやすい最適な画像を撮る工夫はもちろん、患者さんが撮影中に痛みを我慢せずに済むよう細やかに配慮されており、単なる機械操作ではなく患者さんへの気配りこそが最も大切だと気付きました。

初めて足を踏み入れたCT室やMRI室では、装置の開口部の広さやスケールに圧倒されました。MRI室へ入る際には点滴スタンドを非磁性体の専用品に交換するなど、徹底した安全管理の現場を目の当たりにでき、大変勉強になりました。機器のデジタル化により利便性が向上した反面、些細なミスが重大な事故につながるリスクがあることも知り、責任の重さを実感しました。

手術室・透析室の安全を支える医療機器管理の重責

3年 Eさん 実習先：神崎総合病院 ／ 実習日：7月29日(水)

今日の一日体験では、病院内で稼働する様々な高度医療機器について学びました。普段は立ち入ることのできない手術室では、膨大な医療機器が患者さんの生命維持を支えていることを知り、大変貴重な見学となりました。臨床工学技士が日常点検や事前準備、正確な操作を行うことで、安全に手術が遂行できる環境を支えていることを改めて学びました。

また、透析室では人工透析装置の仕組みや役割について教えていただき、患者さん一人ひとりの病態に合わせて安全な治療を行うためには、極めて高度な専門知識が要求されることを痛感しました。臨床工学技士は単に機器を扱うだけでなく、医師や看護師をはじめとする多職種と綿密に連携し、患者さんの命と日々の生活を支える重要な存在です。徹底した機器管理が医療事故を防ぎ、安全・安心な医療環境の基盤となっていることを現場から学びました。

3. 9・10月の進路関連行事(予定)

「生活習慣」を通常に戻す！「起床時間」「就寝時間」「学習時間」を決める！
「3点固定」して生活のリズムを整えよう！ 残暑に負けない『体力』は学力の伸長につながる！
9/10(木) 3年 就職前指導(就職試験直前指導・マナー確認)
9/11～12(金・土) 3年 進研マーク模試 ①(共通テスト対策)・看護模試
9/14(月) 3年 共通テスト出願説明会 / 面接全体指導
9/17(木) 全学年 進路相談日(個別進路面談)
9/18(金) 校内 第4回進路検討会
10/4(日) 3年 全統記述模試(校外実施・2次対策)
10/7(水) 第5回進路検討会
10/9～10(金・土) 3年 進研記述模試(創立記念日)
10/15(木) 2年 探究・中間発表会(総合的な探究の時間)
10/19～23(月～金) 全学年 2学期 中間考査(定期考査で基礎学力定着)
10/23(金) 1・2年 進路講演会(5限:1年 / 6限:2年) / 2年看護医療説明会(放課後)
10/27(火) 全学年 進路相談日(個別進路面談)
10/30(金) 1・2年 / 3年 学びの基礎診断(1・2年) / 進研マーク模試 ①(3年)

4. 「読書」のススメ (購入予定・進路支援室で借りられます)

齋藤孝のあかるい進路相談 齋藤 孝 (著)

受験、就職、これからのこと。やりたいことがわからない、進むべき道が決まらない。何をどう選んで進むのが正解なんだろう……？

そんな進路にまつわるモヤモヤや不安を爽やかに解決するヒントが満載！

高校時代は「自分のキャリア」や「これからのキャリアプラン」について本格的に考えはじめる最初のタイミング。

「進路選択で悩んだり、迷ったりしたときはこんなふうに考えてみよう！」——明治大学で日々学生と接している著者ならではの視点で説く、「後悔しない選択と決断」のための考え方。中高生を持つ親御さんも必読！ 学校の進路相談とはひと味違う、読めば気持ちがあかるくなり、将来に向けて自信とやる気がわいてくる一冊！

どうする進路選択 山本尚毅 (著), 山口大輔 (著)

進路選択は、誕生日プレゼントを選ぶのとはわけが違います。なぜなら、その決断が、あなたの将来に大きな影響を与えうるからです。だからこそ、しっかりと考えて決める必要があります。とはいえ、進路にまつわる情報は膨大です。

大学カタログ、先生や保護者からのアドバイス、先輩たちの体験談……。

気づけば、情報の海に溺れていませんか？でも、それも無理はありません。

多くの人は、「しっかり決める」とはどういうことなのか、その具体的なやり方を習ったことがないのです。実際、大学生にアンケートを取ったところ、「決め方」を教わったことがあると答えたのは、わずか8人に1人でした。「決め方」はビジネスの世界では「意思決定」ともいわれます。

ビジネスでは、どの商品売るか、どこにお金を使うか、誰と仕事をするかなど、たくさんの選択をしながら進んでいきます。意思決定がうまくできないと、時間やお金がムダになったり、チャンスを逃してしまったりします。

「決め方」は、情報の海に溺れないためのライフジャケットです。それを身につけて迷っていると、いつしかあなた自身の中にある方位磁石が、進むべき方向を指し示してくれるようになります。これこそが、「あなたらしい進路」にほかなりません。さあ、この本を通して、あなただけの航海図を描いていきましょう！

4. 新聞記事で進路意識を高めよう！ 大学と企業の連携 *7/13 神戸新聞掲載

神戸大と川重が連携、大学院に新学位プログラムを2028年創設【要約】

神戸大学と川崎重工業は、国の「契約学科制度」を活用し、2028年に「未来モビリティ開発コース」を開設。災害用ロボット開発などを通じ、実践的な高度専門人材の育成と防災課題の解決を目指します。